

月刊

# 書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No45～

平成 29 年

6 月号

一般社団法人日本書字文化協会機関誌  
代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3 階  
電話 03 - 6304 - 8212 FAX03 - 6304 - 8213  
E メール info@syobunkyo.org

////////////////////////////////////  
**主な記事**

- ◆全書研会長に加藤東陽先生
- ◆高円宮杯にチャレンジしよう
- ◆新硬筆検定テキスト 7 巻刊行へ
- ◆市販硬筆練習帳 3 部作そろろう
- ◆8/27 中野でえんぴつ指導者ライセンス講習会

**学生展、硬筆コン手本発送開始は 6 / 1 2 から**

申込順にお送りします。申し込みから 1 週間ほどお待ちください。6 月中旬にはホームページにアップ。ダウンロードし、自由にお使いください。

**ひらがな・かきかたコンクール**

お急ぎの方は書文協本部にご連絡ください。即時に発送します。

# 全書研会長に加藤東陽先生内定



先生方の教科研究団体である全日本書写書道教育研究会はこのほど役員会を開き、先日死去された井上孤城(輝夫)先生の後任会長に加藤東陽＝祐司＝先生(書文協中央審査委員会委員長)を推薦することを満場一致で決定しました。

8月9日、静岡県浜松市での全書研年次大会で選出されます。

## 学校教育の刷新・強化に期待

今回は会長人事のみで、長野竹軒(秀章)理事長(書文協同委員)ら役員の入替わりはありません。書写書道教育の充実を求める国民の声は日ごとに高まっており、加藤一長野先生の強力体制が法規・制度を動員した書写書道教育振興を推進することに期待が高まりそうです。

東陽先生は福島県出身、埼玉県寄居町在住、71歳。現在、全書研の会長代行。日展会友。日本武道館書道大会の審査リーダーを務めています。

書道界が平成26年、こぞって立ち上げた書写・書道教育推進協議会(全日本書道連盟内)の実務者委員会座長として長野先生と共に94万人余の国民署名集めに貢献。署名は文部科学大臣に提出されました。

書文協は、学習指導要領の遵守を理念とし、書写・書道の学びの基礎を作る学校教育を大事にしており、全書研との一層の連携強化を図ってまいります。一方、書写・書道を生涯教育とするため、書文協は社会教育を強化する動きにも参加しており、近く方向を明らかにできると思います。各書塾の先生方のご協力をお願いいたします。

# 武道館・高円宮杯にチャレンジ

## 専修学院生 35人が個人参加へ

書文協は、日本武道館の公募展、高円宮杯(たかまどのみやはい)について書文協書写書道専修学院の中等科生以上には同大会参加を強く勧めています。この結果、約35人が参加を表明しました。作品締め切りは6月13日、展覧会・表彰式は8月27日、武道館近くのホテル・グランドパレスで行われます。

高円宮杯は1985年(昭和60年)に創設され、今年は第33回大会となりました。毛筆と硬筆の部があります。課題は毛筆の部は自由ですが、硬筆の部は指定課題があります。実施要項に掲載されています。

第2回大会で高円宮杯を獲得した渡邊啓子・書文協副会長は「何にどう一所懸命取り組めたかが後の礎となります。最後まで全力を尽くすこと。そして書も体を表すので、技術とともに心を磨くことが大切。」と話しています。

# 「 」 ろ

大平 恵理(書文協会会長)

## 「限界に挑め」



スポーツに親しもう、を共通テーマにした第6回総合大会の課題を考えていたら、中学1年の秋の運動会で、生徒会として全生徒に贈る檄文を私が垂れ幕に書いたことを思い出しました。

生徒会役員全員が、ああでもない、こうでもない、と激論して決めたのが「限界に挑め」でした。それを大垂れ幕に書いたのです。久しぶりに蘇った記憶は、私を純粹だった遠い昔にしばらく引き戻してくれました。

私は、中1の後期から生徒会の書記をしていました。お習字を習っていることを知っていた顧問の先生が、決まった言葉について「大平君、君の好きなように思い切り書いてみなさい」と、おつしやつたのです。私は、当時持っていた太筆を使い、何度もなぞりながら1文字1メートル四方もある大きな文字を書き連ねました。「限界に挑め」は中学生になったばかりの私の心を打ちました。書きながら「自分もそうありたい」と思ったのでした。

出来上がった垂れ幕は、校舎三階の屋上から垂らしても、地面近くまであつたように記憶しています。「すげえな」。文句も垂れ幕の大きさも、みんなの注目を集めました。

それから四十年近く。あなたは限界に挑戦してきましたか？と、問われると内心忸怩たるものがあります。自分では変わっていないように思っているのですが、五十路に差し掛かった今「そうはいかないのが人生なのよ」と、言い訳していることはないか、と反省します。出来ないまでも、真っ直ぐ純粹に思い込んでいたあの頃の自分を抱きしめてあげたくなりました。

みんなが何回も書いてくれる課題です。心に残る言葉をさがしたい、と思いました。



# 新硬筆検定テキスト第7巻を発刊へ

## 楷書・行書・草書を身につけ「硬筆師範」に

これまで硬筆（鉛筆やペン）の検定は、楷書と行書（共に120課題）の二コースに分かれていました。これを新硬筆検定（硬筆課題検定）として1本化しました。実用的書写である硬筆の普及を図るため、学び易く、かつ深く学ぶ工夫をしたものです。この検定を学べば、楷書にも行書にも通じ、硬筆の極致である草書も学ぶことができます。120課題を終了すると硬筆師範の称号が与えられます。7巻は6月中に刊行されます。

## 検定の進みに応じて段・級を付与

検定テキストは15巻シリーズ（書文協出版部刊、各巻8課題、各巻600円+消費税）で、各巻とも学年標準制を取っています。1巻は小学1年生標準、7巻は中学1年生、10巻は高校1年生標準です。これは難しさの順で、一般でも1巻からやるのを原則とします。検定の進みに応じて段・級が付与されます。「継続する力」が個人のポテンシャル（潜在能力）として求められる昨今、段級の記録はAO入試などで高く評価されるでしょう。

## 編入試験で学びを継続

しかし、すでに行書はこれまでのコースで何番までSあるいはA評価を取っているなど、進行しているケースが多いと思います。その場合は編入試験を行い、教場の指導者とよく相談して編入巻を決めます。

## 検定受験に課題数制限なし

新硬筆検定の検定料は1課題500円。検定作品は書文協本部からワンポイント添削付きで返却されます。判定は、それぞれの課題で定められた「評価の観点」に合格したか、あるいは不合格かで示されます。不合格再チャレンジを含め、偶数月に実施される検定に課題数の制限はありません。

成績、学びのポイントは各教場の先生と書文協が連絡を密にして対応します。



幼児からシニアまで、大平恵理の手書き文字で

## 硬筆練習帳市販 3 部作そろろう

書文協では、実用的な書写として硬筆にも力を入れています。書文協出版部で制作・発売中の検定テキスト「えんぴつ・ペン文字練習帳」（関連記事参照）とともに、大手出版社より市販練習帳の発刊にも取り組んできました。このほど朝日新聞出版より、シニア向け練習帳が刊行され、幼稚園・保育園児ら幼児から高齢者まで使える 3 冊がそろいました。

### はじめてのえんぴつれんしゅうちょう

角川出版が平成 28 年 2 月、刊行。 版、127 ページ、本体 950+消費税。まず正しい鉛筆の持ち方、姿勢を徹底的に練習。縦線、横線、グルグル巻きの練習から文字に入ります。楽しいイラストも満載。

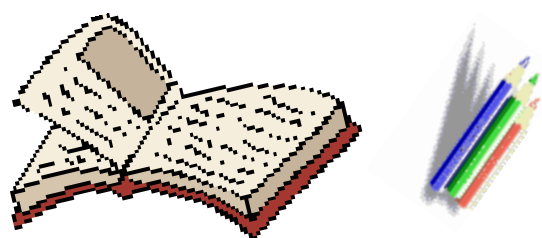
### ドラえものの国語おもしろ攻略「きれいな字が書ける」

小学館が平成 27 年 10 月、刊行。 版、191 ページ、本体 850 円+消費税。人気のドラえもんが書写書道教室の先生（モデルは書文協？）と共にスネ夫やジャイアンらに手書きを教えます。

### 脳活ペン字練習帳姉妹編

朝日新聞出版社は 4 月 20 日「脳活ペン字**実用**練習帳」を全国の書店で発売。「脳活ペン字練習帳」（1 月 20 日発売）の続編で、ともに AB 版、104 ページ、本体 740 円+消費税。手書き文字が脳の活性化に役立ち、知的好奇心を刺激する巧緻（こうち）な手書きが若さを保ち、幸せな生活を招く脳活ペン字。東北大学加齢医学研究所の瀧靖之教授と大平恵理・書文協会長の対談も掲載されている異色の本で、シニアを中心に反響を呼んでいます。

特別発売実施中 申し込み書は最後ページにあります。





# 書文協えんぴつ指導者ライセンス取得講習会

## 8月27日、東京・中野で開催

小・中学校の基本的筆記具は鉛筆です。この指導者ライセンス（資格）はライセンス保持者が、えんぴつの正しい持ち方、筆圧のかけ方などがちゃんとでき、他の人に教える力があることを書文協が社会に保証するものです。教場や園・学校での文字指導の担当者、学習会などサークル指導者にはぜひ持ってほしいライセンスです。

また、書文協では学習の足跡を示す証明書を発行します。有力な資格として保持されることを勧めます。この講習会受講資格を小学5年生以上に引き下げました。教室での教え合い・学び合いの広がりをめざす教学キャリアジュニア版の普及を図り、ジュニアリーダーを輩出するのが目的です。奮ってご応募ください。

書文協では29年度の目玉事業として、8月27日、東京・中野のゼロホールあるいはすぐ近くの書文協本部教室で講習会を開きます。検定とは切り離されたライセンスです。1日6時間の講習を受け、修了試験に合格し、申請すれば、えんぴつ指導者ライセンスが付与されます。先着順受付。奮ってご応募ください。参加料は小・中学生5,500円、高校生以上11,000円。資料代共通約1,500円。

## 大阪、福岡でも開催を検討中

東京とは別に、大阪、福岡でも開催できないかスケジュールを調整中です。日本語の6、7割は「ひらがな」だと言われます。特に幼児期の子どもたちにとって、正しい鉛筆の持ち方とひらがなの習得は、生涯にわたる学習のスタートとも言えます。指導者の育成が急務と思います。開催が決定次第ホームページに掲載します。（写真は平成28年12月10日に書文協本部教室での同講習会）。

### 学力向上にも直結

美しく正確な字は、学校のノートをきちんととることに繋がります。また、継続する力がその人の潜在能力として注目される昨今、書写の継続した学びは入試などで高く評価されるようになってきました。



きのう

今日

あす

書文協副会長 渡邊 啓子

### 他力拝借



例えば料理。簡単レシピを更に色々省いてやってしまうのですが、食せば「やっぱりちゃんと作ればよかった、材料がもったいなかった。持っていこうと思って作ったのに、とても持っていられない・・・」と後悔と反省が膨らみます。同じように出来てもどこかちょっと違う。その一手間、気遣いが美味しさに繋がりますし、美味しくいただくことで気持ちも満足できます。

書写書道においても省けるものと省いてはいけないもの、使えるものと使いたくないもの、等で効率や完成度が変わりますし、有意義な取り組みができます。

特に毛筆は、筆・紙・墨・・・とそれぞれ選択肢がたくさんありますし、選択したものによって、書く意欲まで変わります。

どれも自分に合ったものを見つけるまでに時間と費用がかかりますが、楽しみでもあります。

気になったものを一通り手に取って帰り、書いてみるものなかなかないので、その分見つかった時は心が弾みます。

筆・・・気に入ったものは、売れるんじゃないかというほど買い置きます。

紙・・・同じものでも漉いた時で変わるので、気に入った時期のものを購入。

墨・・・紙との相性等で選びます。

硯・・・山や川からとってきて作ってもらうこともあります。見ているだけでニヤケます。

落款印も楽しみのひとつで、好きな作家さんをお願いします。

小学3年生の時に、展示してあった矢立が欲しくて、お年玉で買いました。そこから始まった楽しみ。書いてつまらないものから良い作品は生まれません。

墨の香や紙の滲みかすれ等、気持ちを奪われてしまいます。気持ちよく書くことで気持ちや心もどんどん入り込みます。無心であり、至福の時。

自然の恵みや人の手によって生み出されますが、どれも自分ではとても作れません。

内容を充実させたり、効果や魅力を引き出せるものやエネルギーを満たせるもの等、必要な場合は力を借りようと思います。

# 教 学 半

教えるは学の半ばなり（書経から）

池田 圭子（書文協教学参与）

## 続けるということ



この春、書文協専修学院の中野本部教室に、中学受験を終えた新中学1年生数名が久しぶりに顔を見せました。受験前の休学を経て、辞めることなく復学をしてきたのです。

紙と筆を前に、嬉々とした彼ら、彼女ら。書写の価値を知ってか、それとも魅力を知ってかは分かりませんが、中学生になっても続けるということは、小学生のおけいこ感覚とは違うと思います。そして、

そこには本人の意思というものが大きく働いているに違いありません。

大ベストセラーとなった「女性の品格」の著者、坂東眞理子さんの講話を聴く機会がありました。彼女は東京大学出身の才媛で、昭和女子大学理事長を務めています。クイズ番組等でお見かけすることもあります。

その講話で坂東さんはこうおっしゃいました。「社会に出て大切なのは、頭の良し悪しではなく、続けることが出来るか出来ないかです」。この言葉は、たくさんの意味を含んでいるかと思いますが、書写書道に限ることなく、何かを続けることは容易ではなく、続けていくことが出来る人は、信念を持っている人でしょう。

これから勉強や部活での両立で、壁にぶつかることも多々あるかと思いますが、初心を忘れずに少しでも長く続けてほしいものです。色々な困難を目の当たりにして岐路に立つとき、たやすく辞めることを選択せずに、是非続けることを選択して欲しいものです。

また、継続する力がその人の潜在能力として注目される昨今、書写の継続した学びは入試などで高く評価されるようになってきました。

帰って来た彼、彼女らは受験という試練を経て、書写書道にどんな魅力と意義を見つけてくれたのでしょうか。指導者として、しっかりと見守っていきたいと思います。



# こ・こ・だ・け の話

谷口 泰三(書文協専務理事)

## 書家という肩書



ある編集者から問い合わせが来ました。「大平恵理先生の肩書を書家にしていいですか？」。

うーん、とうとう来たか、と思いました。これまで多くの編集者と付き合ってきましたが、こう聞かれたのは初めてです。全て、書文協会長で通してきました。しかし、それは組織職名であり、個人の肩書とは別。質問は当然なのです。

決めてなかったのには理由があります。それは、小・中学校でやる書道を書写と名付けて国語科の一部とし、高校は芸術教科に含め、書道1書道2などと呼ぶからです。こう別れるとやりづらいのです。皆さんお気づきのことと思いますが、私どもは記事の表現などでは書写書道と少しもたついた言い方をしています。その書写書道の専門家だと言えれば良いのですが、いかにもこなれた表現ではありません。

私どもは学校教育を大事にし、学習指導要領遵守を理念とします。書写や書道を通じて現代の、あるいは古文の言葉を学び、表現力を身につけるのも目標の一つですから、小・中学校の書写が国語科の一部であるのは賛成です。高校でもそうあって欲しいと思いますし、芸術の一種と考えることにも反対ではありません。そもそも両方とも筆記具と紙の世界なのです。基本は大事にしますが「型から入って、型から出る」自由で独創的な世界も重視しています。

「書写を同心円的に拡大すれば書道と一体になる」と最近、雑誌に書いたのは書文協中央審査委員会委員長、加藤東陽先生です。「同心円とはうまい表現ですね」と話すと、東陽先生は「(亡くなった同委員会顧問)井上孤城先生は『書写と書道は同根だ』と言っておられましたね」と教えてくれました。

そうか、同根にして同心円。書写も書道も含んで書家か。書字文化という言葉にも書家はなじみそうです。

「書家でいきます」と編集者に返事しました。

# 申込表 (FAX 03-6304-8213)

郵送も

団体名 \_\_\_\_\_ 団体責任者 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ (携帯) \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

商品受取希望日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( ) \_\_\_\_\_

**「はじめてのえんぴつれんしゅうちょう」**

855 円 (950 円 × 0.9) × \_\_\_\_\_ 冊 × 1.08 = \_\_\_\_\_ 円

**「ドラえもん きれいな字が書ける」**

765 円 (850 円 × 0.9) × \_\_\_\_\_ 冊 × 1.08 = \_\_\_\_\_ 円

**「脳活ペン字練習帳」**

666 円 (740 円 × 0.9) × \_\_\_\_\_ 冊 × 1.08 = \_\_\_\_\_ 円

**「続・脳活ペン字実用練習帳」**

666 円 (740 円 × 0.9) × \_\_\_\_\_ 冊 × 1.08 = \_\_\_\_\_ 円

合計 \_\_\_\_\_ 冊 \_\_\_\_\_ 円



**※送料について**

梱包代・送料はご負担いただきます。1冊の場合は100円。  
それ以上は納品書・請求書に記載いたします。詳しくは本部事務局とご相談ください。

**※お支払いについて**

商品到着後1週間以内に、同封されている郵便振込票にてお支払いください。  
ご不明な点は、書文協本部（03-6304-8212）までお問い合わせください。

< 下記は書文協本部使用 >

注文受付者		出庫者		発送日		納品書番号		送料 ¥	
備考	団体番号					送付日	月 日		